

大学入学共通テスト「情報」 経過措置問題に関する考察

— 旧課程履修者にとっての賢い選択とは —

松尾 康德

代々木ゼミナール

mttoysnr@gmail.com

大学入試センターは2022年11月、2025年から大学入学共通テストに導入される「情報」の試作問題を発表した。そこでは、新課程履修者を対象とした「情報I」とともに、旧課程履修者を対象とした経過措置問題「旧情報(仮)」も発表されている。旧課程履修者が2025年入試に再チャレンジすることになったとき、どのように対策を始めるべきか。代々木ゼミナールでは新課程だけでなく旧課程についても試作問題の分析を行ったので、その結果を報告する。

1. はじめに

周知の通り、2025年の大学共通入学テストでは新たな教科として「情報」が加わる。新課程の「情報I」履修者が初めて大学受験に挑むこの年は、新課程履修者向けの「情報I」に加え、1年限りの経過措置として旧課程履修者向けの「旧情報(仮)」が用意されることが決まっている。

2024年以前に卒業した旧課程履修者にとって「情報」は、2024年以前は受験科目ではなく、高校在学時に受験科目として学んでいない。現在の高校3年生や既卒生が来年2024年の入試に成功できず、2025年の入試に再挑戦する場合、実質ほぼ学び直しになると考えられる。一年後の再挑戦に向けて準備を始める2024年春には、学び直しのプランを考えなくてはならない。

それを考えるうえで参考になりそうなのが、2022年11月に発表された試作問題の「旧情報(仮)」だ。筆者が情報科講師を務める大学受験予備校では、新課程向けの情報Iだけでなく旧課程向けの旧情報(仮)の試作問題についても分析を行った。本発表はその旧情報(仮)の分析をまとめたものである。

2. 問題構成

2.1 共通問題と旧課程専用問題

大学入試センターが発表した旧情報(仮)の試作問題は表1のような構成になっている。

このうち、網掛け部の第1問Aの問1と問2、第1問B、第2問、第5問は新課程の情報Iと共通の問題である。情報Iの試作問題については既に本予備校を含め各方面でさまざまな分析が行われているので、今回の発表では旧情報(仮)単独で出題されている試作問題に限って分析をまとめることにする。

表1 「旧情報(仮)」試作問題の構成
(網掛けは「情報I」との共通問題)

大問	問	配点		
第1問	A	問1	4	必答
		問2	6	
		問3	6	
		問4	4	
	B	15		
第2問		15	選択	
第3問		15		
第4問		25	必答	
第5問		25	選択	
第6問		25		

2.2 旧課程の科目との対応

第2問と第3問、第5問と第6問はいずれか一つを選択する方式である。この選択は、旧課程に「社会と情報」「情報の科学」の2つの科目があったことを想定したものである。「社会と情報」履修者を想定した問題は第3問と第6問、「情報の科学」履修者を想定した問題は第2問と第5問である。ただし選択は試験の場で決めることができ、履修科目に関係なく選択することも可能だ。

なお第2問と第5問はいずれも情報Iとの共通問題である。つまり選択問題については「情報の科学」と「情報I」は差はないことになる。

3. 第1問

Aの問3はモールス信号を題材に2進数の知識を問う問題、Aの問4はデータ量を計算させる問題である。いずれも情報Iで出題されても不思議ではない内容であり、共通問題の第1、2問、Bと合わせて第1問は新課程と旧課程での差はないと言える。

4. 第3問

著作権に関する問題である。コンテンツ利用規約を読ませて理解を問う問題や著作権を構成する各権利について問う問題、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスに関する問題で構成されている。

最初の2問は規約の正しい読解や字面からの推測でも正解に近づける点で比較的解きやすい。クリエイティブ・コモンズ・ライセンスは、それが作られた背景を知っておけば、問く作業自体は単純な組み合わせの数の計算である。いずれも教科書レベルの著作権の基礎知識で十分回答が可能だ。

5. 第4問

ネットワークとセキュリティに関する問題である。家庭用のルータの役割や無線 LAN のセキュリティ機能、セキュリティの三大要素などに関する問題で構成されている。

旧課程の「社会と情報」履修者を対象とした問題の中では、相対的に難易度は高いと思われる。しかしルータの役割については、家に無線ルータがあるならばその本体や設定画面をを少しでも調べたことがあれば、問われている内容は容易に理解できる問題であり、総当たり攻撃やセキュリティの三大要素の問題は、それ自体の説明が問題文の中に書かれている。知らなくても問題文を読んでその場で解くことは可能だ。ただし実際の試験では限られた時間の中で解くことを考えると、あらかじめ学習しておいた方が望ましい。

6. 第6問

問題解決手法や情報デザインに関する問題である。アンケートの適切な作成方法や回答分析、グラフによる表現、テキストマイニング、分析結果の適切なまとめ方などに関する問題で構成されている。

この問題は、内容以上に問題文の量がカギである。10 ページにわたる問題であり、問題の読み込みだけでそれなりの時間を要すると思われる。一つひとつの問題文や選択肢が長いうえに、図表も8個あり、問題の前提条件を把握するところまでに手間取る可能性もある。「ブレーンストーミング」や「クラウドサービス」、「フィルタリング」などの用語の知識も必要だ。

しかし問題の読み取りさえ正しく行えれば、考察により正解を導き出すことは比較的容易と思われる。例えば問6はテキストマイニングについて問われている問題だが、正答以外の選択肢が明らかに的外れなので消去法で分かる。情報デザインに関する問8は「わかりやすく伝わるようにするために」という条件にもかかわらず、「文字を小さ

くして」や「文字情報だけで」のように常識的に除外できる選択肢が含まれている。情報デザインは、見る人に依存する部分が少なくなく、人によって判断が分かれることもある。「明らかに○」や「明らかに×」でないと入試問題にならないので、このようにはっきり分かれるような選択肢にならざるを得ないのではないか。

7. 分析の全文

分析の全文は、新課程の情報Ⅰ、旧課程の旧情報(仮)とも下記サイトで公開している。

<https://www.yozemi.ac.jp/nyushi/bunseki/index.html>

8. 考察

経過措置問題として用意される旧情報(仮)は、2025年時点での既卒生を対象とした問題だが、既卒生は必ず旧情報(仮)を選択しなければならないというわけではない。新課程の情報Ⅰを選択することも可能で、その選択肢も考慮に入れるべきではないかと考える。

理由の一つは、旧課程向けの参考書や問題集の十分な品揃えが期待しにくい点だ。2023年の共通テスト志願者のうち既卒生の割合は14.0%に過ぎない。2024年入試は新課程移行前で一層の安全志向が進み、2025年は既卒生の志願者がさらに減るだろう。また経過措置は初年度の2025年限りと明言されている。受験者の1割程度の層を対象とした1年限定の教材を、各社が幅広くラインナップするとは思えない。

もう一つの理由は得点調整だ。情報Ⅰと旧情報(仮)の間では、受験者数に関係なく得点調整を行うことを大学入試センターが発表している。情報Ⅰの試作問題のプログラミング問題が回を追うごとに容易になっている一方で、旧情報(仮)の問題が長文化していることからすると、大学入試センターは情報Ⅰが旧情報(仮)に比べて極端に点が低くなる事態を懸念しているのではないだろうか。つまり情報Ⅰに加点を行う得点調整の可能性を、今から想定しているように思われる。得点調整が行われるならば、旧情報(仮)との難易度の差はそれほど気にする必要がないことになる。

既卒生にとって情報はほぼ学び直しになるため、教科書だけでなく試験対策を効果的に進められる教材が不可欠だ。しかし上記のように旧課程向けの教材が期待しにくい状況では、「既卒生でも敢えて新課程の情報Ⅰを選択する」ことを考えてもよいのではないだろうか。少なくとも「既卒生だから旧課程」と自動的に選択してしまうのは得策ではないと考える。